

生徒の書写力を高める指導

梁川町立梁川中学校国語部

一、研究の経過

本校では、昭和四十九年度、福島県書写書道教育研究協議会から指定を受け、梁川小学校、梁川高等学校とともに研究に取り組んだ。

しかし、中学校の場合、一応の成果をあげるためには、少なくとも三年間の継続は必要と考え、五十年からは町教委の指定を受け、研究を進めてきた。年度ごとの研究主題は

・四十九年度「二人人を伸ばす書写指導のあり方」——楽しい書写学習の訓練はどのようにすればよいか——

・五十年「生徒の書写力を高めるための書写指導のあり方」——国語教師のだれもがやりやすい授業とするために——

・五十一年度「自主的な学習態度を育てる指導法の研究」であつたが、これらの目標を達成するために

(1) 日常の指導に役立つ年間指導計画の作成
(2) 一時間ごとの指導案(時案)の作成
(3) 用具・教材準備計画の作成
を三本の柱として研究を進めてきた。

二、指導計画について

(1) 年間指導計画

四十九年度に作成したものについて反省を加え、五十、五十一年度と、そ

第3学年 書写指導年間計画

月(時)	単元(時)	単元目標	題材	要 素	基 礎 理	毛・硯別 (字の大小)	用 紙	教 科 書	指 導 内 容 ・ 活 動
4	①	1. 楷書の筆づかいや字形の整え方に習熟させる。	自然科	筆づかい	<ul style="list-style-type: none"> ・ほねとほらい 字……了 料……斗 ・筆圧……斗 ・筆速 ・字形の整え方 白……自由 然……口 料……口 字……印 	毛(中)	半紙	P. 4, 5	① 基本事項の復習(姿勢、執筆、楷書の基本)
	②	2. 画数の多少や字形的特徴をとらえて、紙面にのびまきよく書けるようにさせる。							② 文字の各部分の組み合わせ、点画の接し方、筆づかいについての理解
5	②	1. 臨書されたものを手取りかりとして中国の楷書と行書の名跡について筆づかいや字形の整え方、配置などの楽しさを味わわせる。	名跡鑑賞	・名跡鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・字形、筆づかい 全体の感じ ・名跡(行、行)の特徴 	毛(大)	半紙	P. 10 P. 11	① 単体の字形的基準を理解
	③	2. 楷書と行書について理解と関心を深めて正しく美しく書こうとする態度を養う。							② 点画の接し方の理解
<p>③ 練習</p> <p>④ 清書、提出</p> <p>⑤ 批評(鑑賞)</p> <p>① 横濱南「孔子廟堂碑」と王羲之「蘭亭序」についての理解</p> <p>② 臨書を通してその特徴の理解 《虞世南と王羲之の書の比較》</p> <p>③ 臨書、提出</p> <p>④ 名跡と臨書を比較しながら、それらのよさを味わう。</p>									

それぞれ改訂して内容の充実を図った。特に、「要素」「基準」をどのようにおさえるかが検討の中心となった。(三十五、十八、十四時間の学年配当として三年生には名跡鑑賞も入れた。)

国語科書写(毛筆)指導案1年 No.15 9月

学習過程	学習活動・内容	時間	指導上の留意点
(1)準備		1	
2. 目標のは握	2. 本時の目標を知る。 ○行書の特徴 ○行書の基本的な筆づかい	5	・行書を学習するわけを話し、基礎的な書き方を理解させる。
3. 試書	3. ためし書きをする。 ○手本を見ないで「光」を書く。	5	・「光」一字を行書で書かせ、どこが楷書と違うかを見つけ出させる。
4. 基準の明示	4. 基本を正しくつかむ。 ○行書の特徴 ・まるみ、点画の連続 ○筆づかい ・まるみ(第1画と第4画) ・左はらいの方向を変える。(第5画)	7	・「光」について、行書と楷書それぞれの範書を提示し比べさせることによって、二つの違いをはっきりつかませる。

(3) 用具・教材準備計画
それぞれの題材別に、用具・教材の調達購入方法をあらかじめきめておきスムーズに授業にはいれるように計画している。

(2) 時案
指導に当たっては、十段階指導法(準備・目標は握、試書、基準の明示、練習、修正、清書、まとめ、次時の予告、整理)を中心とし、すべての時間についてカード式の授業案を作成した。四十九、五十年の授業実践をもとに五十一年度において完成した。